高良興生院・森田療法関連資料保存会

ニュースレター あるがまま

NO.6　２０１３年３月

井上円了と森田正馬　―　森田療法成立への貢献

東京慈恵会医科大学　精神医学講座　　中山　和彦

井上円了について調べていた頃、哲学堂の存在はもちろん周知していた。しかしそこに行くことは、最後の作業だと勝手に思っていた。

それから20年近くたって保存会から哲学堂での講演の依頼をいただいた。いくらなんでも井上円了の研究は時間的には終結すべき時と思っていたので、遂に哲学堂で「井上円了と森田療法―森田療法成立への貢献」と題する話をすることにした。

哲学堂公園には四聖堂（釈迦、孔子、ソクラテス、カントの四大哲学者を祭っている）のほか、哲理門、六賢台、三学亭、百科叢など７７の建築物からなるが、今風にいうと哲学の重要なモニュメントによるテーマパークとなっている。その正門の瓦屋根には家紋の代わりに「哲」という字を刻んでいる。

それよりも注目すべきは公園のすぐそばにある円了の墓である。墓の形が井の字の上に円形の石を乗っけて、井上円了の名前の代わりにしているのである。「ツチヤの口車」で有名なお茶ノ水大学元教授の土屋賢二氏からもわかるが、哲学者には茶目っ気のある人が多い。

筆者がなぜ円了に注目したか。それは言葉で理解することが困難であった森田療法の攻略法であった。

すなわち森田正馬が森田療法を編み出していく過程、森田療法の成立をくわしく探索することが、最も自然に森田理論をその源流から理解することになると考えたからである。そのために当時の精神医学的状況、文化的関わりなどにも注目した。その結局、精神医学史、社会精神医学、民俗学などの魅力に取りつかれていった。

森田療法の成立に大きな影響を及ぼした人物として、筆者は以前より次の５人に注目してきた。それは森田理論の基礎の形成に関与した井上円了、森田療法を世に輩出する原動力となった中村古峡と杉村楚人冠、そして森田療法の発展に寄与した佐藤政治、宇佐玄雄である。

森田は森田療法を完成した後の著書「精神療法講義」にも参考文献として井上円了を引用している。

森田にとって円了はやはり特別な存在だったのだ。

（井上円了の墓）

発行・高良興生院・森田療法関連資料保存会
東京都新宿区中落合１－６－２１　就労センター「街」内

森田療法の成立において、井上円了の「妖怪学講義」や「心理療法」から大きな影響を受けているという記載は、円了の研究家でもある板倉聖宣や恩田彰らの解説書にみられる。これは森田療法研究家であった慈恵医大の野村章恒による、森田正馬評伝の中の記載が主な根拠となっている。

森田は中学、高等学校時代から、円了の「哲学一夕話」（明治19年）や「心理摘要」（明治20年）、を既に愛読していたこともわかっている。

しかし重要なのは、森田療法の完成、発表の前に研究行われた高知における「犬神憑き」の調査研究を行ったことである。円了は「妖怪学講義」で犬神、狐憑き、種々の邪教をとりあげ、自然科学や心理学によって解説し、邪教、迷信の打破を訴えていた。そのことは幼少時、迷信に強く惹かれていた森田にとって大きな導きとなった。結果「祈祷性精神症」を見出すことにもなった。それを踏まえて当時の西洋医学が注目されるなか、東洋的な森田療法を堂々と世に輩出することができたのである。

特に「心理療法」（明治20年）は森田療法の基盤をなしている。『一切の疾患は、心身相関の上に現れるが、その原因は身体から生じるものと心から生じるものがある。・・身体からの治療を生理療法、心のほうからの治療を「心的療法」、「心理療法」という・・』。心理療法の我が国最初の名付け親である。またこの時代、心身相関の考え方を指摘したことは驚異的な功績である。

円了は心理療法には自療法と他療法があるとした。さらに自療法を信仰法と観察法に分けている。そのうち信仰法には自信法と他信法があると述べている。この自信法とは、自らこの病気は治ると信じることしている。さらに、他信法は神仏を信ずることで病気が治ると信じることだと述べている。観察法の分類が、円了の最も偉大な業績である。すなわち、観察法は自観法と他観法があるとし、自観法は、自己が体験する事実を観察する方法で、さらに思想（人為）的自観法と自然的自観法に分けている。その思想（人為）的自観法は「自己の心を反省して種々の観念を作るが、自己の心を統制していく」ものである。そして自然的自観法とは、「人の生死や疾患は、人間の力ではどうにもならないものと悟り、自然に、任せる」という方法である。

円了のいうこの自然療法、特に自然的自観法の考え方は、森田療法「あるがまま」に受容するという考えにほかならない。井上円了の言葉に、「哲学はあらゆる事物の原理を定める学問であります。政治、法律はもとより科学や芸術まで、その根底には哲学がなくてはなりません」。

森田療法がいつも新鮮さに満ち満ちているのは自然な哲学に導かれているからかもしれない。

瀬戸行子さんを偲ぶ会　ご報告

高良興生院・森田療法関連資料保存会　　吉田　惠子

森田先生から直接教えを受けた最後の生き証人である瀬戸行子さんが、2012年6月20日に亡くなられてから9か月がたち、また春がめぐってきました。新宿森田読書研鑽会の皆さんと石神井川沿いの桜並木の下でお花見会をしたことが思い出されます。朝早くから私に宴会の準備の指示をし、祝い酒を一升瓶で買ってきてといわれ、その間にきれいにお化粧して着替えていました。車椅子の瀬戸さんを取り巻いて次々質問され、話に聴き入る皆さんの真摯なお姿に触れ、森田先生、水谷先生の周りを神経質者が取り巻いている情景が重なりました。

倒れる１か月前のその時の写真が、保存会主催の「偲ぶ会」で遺影として飾られました。森田療法学会が終わった１週間後の 11 月 24 日、就労センター「街」の３階研修室に、瀬戸さんの晩年を知る発見会、学会関係者、遺族の 16 名が集いました。

会場は、瀬戸さんが高良先生に年賀の挨拶に訪問し、けやき会に出席したり、知人の診療に同行したりしてなじみのある高良興生院の跡地です。95 歳過ぎてから増野先生の講座のサイコドラマやソシオドラマに車椅子で参加した思い出の研修室でもあります。森田の仲間に出会える保存会の催しを楽しみにしていました。落合駅の近くには長年通った聖母病院や鳳友会のお箏の練習所もあります。さらに「街」の２階の資料室は、瀬戸さんを知らない人でも今後新たな関係を結ぶことのできる場所になりました。７月に仲間で収集した瀬戸さんの資料が保存されています。

会長の増野肇先生が開会の挨拶で瀬戸さん宅を訪問しインタビューした思い出を話され、一番古い知人の岩田さんの進行で、出席者の自己紹介からはじまりました。瀬戸さんの生涯の紹介と展示を担当した吉田が、学会では時間切れで発表しきれなかった昭和 11 年の日記の森田先生とのやりとり、先生のお側での役割、歴史的団体・仲間との関わり、「人間教育」の面についてなど、思う存分話しました。その後、保存会作成の瀬戸さんの DVD を一部上映した後は、出席者の思い出話など自由な懇談となりました。「最期は携帯電話を固く握りしめていました」と姪御さんが話された時は、まだまだ一緒に活動したかったと寂しさがこみあげてきました。亡くなる数日前にお見舞いされた山野井房一郎さんのご家族はじめ、親しい関係者５名の方からのメッセージも紹介されました。こじんまりとした温かい心の交流のある「偲ぶ会」となりました。

森田の真髄『事実唯真』の教えを３０年にわたり人間的成長の支えとし、最期まで森田正馬と形外会の仲間、後輩とともに歩み続けた「女の一番弟子」といえましょう。神経質者だけでなく、ハンディーを背負っている人たち、高齢者誰にとっても模範となる生き様を示し教えてくださいました。

瀬戸さんより、「皆さん、お世話になりました。ありがとうございました」。

秋の心の健康連続講座のご報告

高良興生院・森田療法関連資料保存会　足立　美知子

保存会主催の「秋の心の健康講座」三回シリーズを昨年１０月から１２月にかけて行いました。

一回目は「等身大の自分で生きる」という題で、お茶の水セラピールームの岩田真理先生にお話していただきました。ストレス社会で生きる我々の心に森田（療法）が染み入るように入ってくる、そんなお話でした。

二回目は「高良興生院と森田療法」の題で、飯田橋光洋クリニック院長の市川光洋先生にお話していただきました。高良興生院のこと、森田療法の本質と外来森田療法について、丁寧にお話していただきました。

三回目は「発達障害理解のために」の題で、東京えびす様クリニック院長の山登敬之先生にお話していただきました。発達障害について、多くの方に正しい理解が望まれる昨今、先生のお話はとてもわか